

## 「エサウとヤコブの誕生」

2021年03月03日

彼女は不妊であったので、イサクは妻のために主に祈った。主はその祈りを聞き入れられ、妻リベカは身ごもった。ところが、胎内で子どもたちが押し合うので、「こんなことでは、一体私はどうなるのでしょうか」と言って、主に伺いを立てるために出かけた。主は彼女に言われた。「二つの国民があなたの胎内に宿っており／二つの民があなたの腹の中から分かれ出る。一方の民は他方の民より強くなり／兄は弟に仕えるようになる。」(創世記 25章 21節～23節)

アブラハムの独り子イサクについては 25章 19節から 26章 35節までに記され、族長の中では、最も記述が少なく、影の薄い存在である。彼は両親から愛され、温和な性格に育った愛すべき好人物と言えよう。欲のない柔和な人で、被害を受けても争わずに与え、それでいて、恵まれている。神はイサクをアブラハムのゆえに祝福されたのである。

イサクは 40歳の時、父の出身地パダン・アラムのアラム人ベトエルの娘リベカをめぐらした。父母亡き後、イサクは美しい妻リベカを愛し、穏やかな生活を送っていた。リベカは、イサクの母サラと同じく、なかなか妊娠しなかった。「彼女は不妊であったので、イサクは妻のために主に祈った。主はその祈りを聞き入れられ、妻リベカは身ごもった。」イサクの祈りが聞かれたのは、彼が 60歳の時で、結婚 20年目に、子どもに恵まれたことになる。命の誕生は神がなさることで、ようやく、神からの命を授かった。ところが、リベカは胎内に、双子を宿していた。その双子は、押し合いへし合いしながら、争っていた。胎内で争う双子に困惑したリベカは、神に伺いを立てた。胎内で、宿った命が躍動するのは当然であるが、お腹の中で争うというのはユーモラスで、また、その理由を神に聞くというのが、いかにも聖書的である。リベカの間に、神は答えられた。「二つの国民があなたの胎内に宿っており／二つの民があなたの腹の中から分かれ出る。一方の民は他方の民より強くなり／兄は弟に仕えるようになる。」リベカの胎内に、二つの国民が宿り、二つの民が分かれ出る。一方の民が他方の民より強くなる。どちらかの民が強くなるのは自然である。驚くべき、不思議なことは、「兄は弟に仕える」という言葉である。イスラエルでの常識は、初子・長男に諸々の権利が譲渡され、次男以下は、唯の人である。リベカの胎内の双子は、弟が優先する。順序が逆転するとのみ告げである。リベカは、この神のみ告げを心に留め、それに沿って行動していく。「兄は弟に仕える」という言葉は神の選びを指し、神に選ばれた者としてのヤコブの生涯が決定された。神の選びは人間の優劣でも、この世的な幸いに与ることでもなく、神の使命を負わされ、あえていえば、苦難の生涯を託されることではないか。ヤコブの生涯は平坦ではなく、山あり谷ありの多難の連続である。

出産の時、初めに出て来た子は赤くて、全身、毛の衣のようであった。それで、その子をエサウ（毛深い）と名付けられた。また、エサウはエドム人の祖となっているが、赤い（アドム）とも語呂合わせされている。その後で弟が出て来たが、兄エサウのかかとを掴んでいた。先に行く兄を留め、自分が先だと主張していたという。体内にいる時から、自分の意思表示をしていたというのが、何とも面白い。兄エサウのかかと（アケブ）を掴んでいたので、ヤコブと名付けた。彼は、かかと（アケブ）からヤコブと奇妙な名を付けられたが、後に、信仰を鍛えられ、最も榮譽あるイスラエル（神、支配したもう）という名を神からいただいている。ヤコブは生まれる前から、神に選ばれていたのである。